

# 川辺川の総合開発

## ★計画決定までの経緯

球磨川の最大の支川である川辺川は、去る昭和三十八年以来、連続三年の災害をもたらしたが、特に昭和四十年七月の洪水は球磨川としても未曾有の大洪水であり、上流山地部においては、各所に山腹の崩壊をもたらした同河川流域に多大の被害を与えたとともに、人吉・八代等の下流の市街地で各所に氾濫し、多くの人命と財産に損害を与えた。

このため建設省では、昭和四十年の半ばから川辺川の上流から下流まで一貫した治水計画の再検討を加え、昭和四十一年度以下流域の防災対策としては、相良村藤田地点に「川辺川ダム」を建設するとともに、さらに上流地域については、五木村上荒地地点に「五木ダム」を建設し、同河川の総合的な防災対策を決定した。

一方、このダム建設の計画調査と並行して農業開発及び電源開発調査をすすめていた農林省と通産省は、四十三年度なかばに一応開発の結論を得、建設省との三者の協議により川辺川ダムについては、治水を主とし、農業開発、電源開発を従とした「多目的ダム」の結論に達し、昭和四十四年度から着工の運びとな

った。この「多目的ダム」としての川辺川ダム及び「治水ダム」としての五木ダムの建設計画は、次のとおりであり、特に川辺川ダムは、川辺川流域の総合開発の主要な果すものである。

## ★開発の概要

### 治水対策

#### (1) 川辺川ダム建設計画

川辺川下流域の防災とあわせて農業、電源開発を目的とした川辺川ダムは、堤高百七・五メートルのアーチ式ダムであり、総貯水量を一億三千三百万トン、有効貯水量一億六百万トン（うち治水八千二百万トン）、農業二千百万トン、発電三百百万トン）の大規模な多目的ダムであり、昭和四十四年から着工し、同四十八年に完成される予定となっている。

#### (2) 五木ダムの建設計画

川辺川上流地域の治水を目的とした治水ダムで、堤高六十メートル、総貯水量四百三十万トンの防災ダムで、下流の川辺川ダムと同様に昭和四十四年度に着工し、同四十八年度に完成する予定である。

### 農業開発

川辺川ダムを利用して、川辺川左右岸

## ★残された問題点

の畑地約三千三百ヘクタールを対象に千四百ヘクタールの開田、千三百四十七ヘクタールの畑かん、五百五十三ヘクタールの用水改良を実施し、この地域の干ばつ被害を解消して農業の生産性の向上を期し、「川辺川地区国営かんがい排水事業」として、昭和四十五年に調査を完了し、同四十六年から着工の予定である。

## 電源開発

川辺川総合開発の一環として、電力需要に資するため、川辺川ダムを利用して約三万キロワットの発電計画の予定である。

# 食糧供給基地めざして

★国民食糧供給基地として、九州の今後の開発が大きく期待されているが、その中心的役割を担う熊本県の現実と計画はどうか……。

## ■土地基盤の整備

経営の規模を拡大し、近代化を進め、生産性を引き上げることが、農業の進むべき方向であることは、農業基本法の示すところであるが、その基本条件である土地基盤はどのように進んでいるか、八代、玉名、熊本の三大平野に例をとって

説明してみよう。  
昔から、人間は農耕生活を始めてから今日にいたるまで、水を治め、水を使うことに苦心し、努力してきたといえよう。現在では、河にはたくさん堰が設けられ、あるいは溜池をつくったりして

昭和四十二年には、菊池川左岸の水路が完成していたので、昭和四十二年の大干ばつにも被害を受けることなく豊作を喜びあったところである。

### 八代平野土地改良事業

これは国営、県営共同の事業で、八代平野七千二百ヘクタールの用排水改良を行なうものである。国営で新造堰の設置、幹線用水路三十二キロメートルの新設、改修を行ない、県営で国営事業につづく用水路三十一キロメートルと排水路四十三キロメートルの改修（一部国営）及び排水樋門、排水ポンプ等を施行するものである。

これらの事業により、末端水田で十分な農業用水を送水する一方、洪水被害をなくし、常時湿地帯を乾田化することにより、土地の有効的な利用度を拡大しようとするものである。

### 緑川土地改良事業（計画）

この計画は、緑川ダムより緑川沿岸の約四千四百ヘクタールの既成農地に対するかんがい用水を確保するとともに、釈迦院ダム、金桁ダムにより中央村、豊野村、城南町、松橋町、小川町、宇土市、不知火町、三角町、大矢野町の各町村にまたがる約六千九百ヘクタールの耕地の用水補給と畑地かんがいを行なうものである。遠々と三角半島を通り天草まで通水しようという計画は、その構想において九州の愛知用水ともいえる。

干害は減少しているとはいえず、昭和四十二年の大干ばつのように、本県耕地面積十五万六千九百ヘクタール中、干ばつにあわないといえる、施設の完備しているものは、まだ半分にも達していないというのが現状である。

このため国や県では、各種のかんがい排水事業を行なって、今までの施設を改良するとともに、新しい地域への用水施設を新設したりして、生産性をたかめ、排水不良の農地には、排水路や排水ポンプを設けて新しく改良するなどいろいろ

の事業を行なっている。

### 県営玉名平野土地改良事業

この事業は従来、菊池川にあった石張りによる白石堰（受益面積二百ヘクタール）が老朽化し、たびたび洪水による被害を受けるので、下流でポンプ揚水してある水田等四千三百六十ヘクタールの用水を含めて合口取水することとして、近代的な堰に改修し、さらに堰より約三十五キロメートルのコンクリート水路を新設、改修するものである。

天草の水資源の開発をはかる羊角湾地域農業開発は、新年度からいよいよ本格化するわけだが、総合開拓パイロット事業および干拓事業とも四十九年度完工を目ざしてすでに実行に入っている。

羊角湾地域の農業開発とは、羊角湾を締め切つて淡水湖をつくり、開拓パイロットと干拓事業で約千六百平方メートルの耕地をつくり、農業生産基盤を整備しながら、果樹と米の一大特産地を造成。そしてこの地域の農業開発を総合的にすすめていく構想である。

## 天草 羊角湾地域の農業開発

機でかんがいし、余った水は飲料水・工業用水にまわされる計画である。

従来、この地域は自然条件に制約されて、自立経営農家が少なく、加えて

形成された場合、漁業振興と相まって、みかんと魚の食品加工工場などの工場誘致も可能になり、観光地としても一躍クローズアップされることになろう。

この他に、例年水不足を訴える天草では、本渡市にかんがい用の楠浦ダムが完了したのに引きつづき、昭和四十四年には若北町に同じくかんがい用の志岐ダムの建設を着工する予定である。  
また、近年の科学技術の進歩は著しく、コンピューター管理による無人の大工場さえ出来ている現在、農業の飛躍的発展の障害は、経営単位当りの耕地面積の少ないことと、一時期に多量の労働力を必要とすることであろう。この労働力の点では近年小型耕耘機、種刈機等の導入により、幾分改善されつつあるが、将来の目標としては、大圃場で大型機械が作業することである。  
このためには、それにふさわしい圃場でなければならぬ。大型機械の通れる農道に接した広い圃場で、用排水が完全に分離されてかんがい排水の操作が自由に出来る必要がある。こういう圃場づくりを進めているのが圃場整備事業である。  
現在、中球磨・走馬・鹿本中央等熊本県内で昭和四十三年までに県営、団体営事業あわせて約五千五百ヘクタールの圃場整備が完了しており、将来はほとんどの耕地を近代農業に適した圃場へと整備させなければならないと計画しており、そのことのみが、食糧基地熊本の確立が達成されるものと思われる。  
(耕地第一・二課)